

## 学校再編計画の素案（たたき台） ポイント

### 《 ポイント① 》

少子化の時代においても、一定の学校規模を継続的に維持し「子供達がより多くの友人と触れ合い新たな関係を築く機会の提供」や「小学校における教科担任制やグループ別指導等の多様な学習環境の提供」など、様々な経験が出来る学校環境を提供します。

（令和 20 年度においても中学校 1 校・小学校 2 校の標準規模校を維持）

種 別	標準規模	再編内容（統合校）	令和 20 年度 （学年／生徒数）
中学校	4～6 学級	（館山中・第一中・房南中）	176 人（5 学級）
小学校	2～3 学級	（北条小・館野小・九重小）	73 人（2 学級）
		（館山小・西岬小・豊房小）	49 人（2 学級）

### 《 ポイント② 》

中学校の統合を見据えたなかで、子供達に最善な学校環境を提供します。

（那古・船形小の統合／令和 8 年度）

- 2 校の統合により今以上の学校規模を確保し、複式学級の解消や子供達がより多くの友人と触れ合う環境を提供します。
- 小学校 6 年間で築き上げた子供同士の間関係が、中学校の進学に伴い分断されることを避けるため、第一中学校と館山中学校が統合するまでの間は、館山中学校区内の小学校との統合は行いません。
- 児童や保護者の負担軽減を図るため、小学校在学中に 2 回目の学校変更が発生しないよう、統合時期は 1 年前倒し令和 8 年度とします。
- 令和 14 年以降の学校運営に関しては、統合後 5 年間の学校運営状況を踏まえ、令和 12 年度に再度保護者の方々と協議を行います。

### 《 ポイント③ 》

小規模での教育環境を望む保護者の考えや、児童の特性に合った「学校の選択肢」を確保します。（小規模特認校の設置）

- 安房地区で初となる「小規模特認校」（市内全域が通学区域）を、現在の房南小校舎に設置します。
- 通学を希望する保護者負担を軽減するため、市内全域から学校に向けた通学支援を実施します。
- 幼保・小学校が一体となった教育環境を提供するため、房南こども園（旧神戸小学校）の房南中学校施設内への移転を検討します。

#### 《 ポイント④ 》

学校再編後の豊房小学校跡地を利用し、専門性を高めた、不登校児支援・発達支援機能の充実強化を図ります。

- 現代社会の教育課題とされる「不登校児の増加」・「特別な支援を要する子供の増加」に対する支援機能を強化します。
- 広い運動場・体育館・校舎といった学校教育に必要とされる機能を有した学校施設を有効活用します。

(不登校支援機能)

- 児童生徒が主体的に社会的自立や学校復帰に向かうよう、不登校のきっかけや継続理由に応じた適切な支援や働き掛けが出来る環境を整備します。

(発達支援機能)

- 発達に課題を持つ保護者・子供に対する相談窓口、各種支援機能の情報を一元化した「センター機能」の設置について検討します。

#### 《 ポイント⑤ 》

投資の「選択と集中」により、集約化した学校施設の環境を充実します。

- 学校再編に伴い今後 10 年間で 41 億～64 億円の財政負担が軽減されます。それらの費用の一部を集約化した学校に集中的に投資し、ハード・ソフトの両面から教育環境を向上させます。

(ハード面)

- 適切な時期に必要な施設改修（大規模改修）を目指します。
- 特別教室（理科室・図工室など）へのエアコン設置を行い、近年の気候変動に対応した教育環境を提供します。
- 学童クラブの受入増加に対応するための新たな施設改修・整備を行います。

(ソフト面)

- 教職員の人的配置（学習支援員など）を強化し、学習・生活環境の充実を目指します。

(令和 5 年 11 月)

- 館山市教育委員会／教育総務課（学校再編推進室）
- TEL：0470-22-3694
- Mail：kyousoumu@city.tateyama.chiba.jp